

# Local Life Journal

ローカル・ライフ ジャーナル Vol.3  
2016 Autumn

in Nara Okuyamato



奈良・奥大和

## Local Life Report

奥大和エリアの移住・定住にまつわる動きをレポート。  
今回は大淀町、川上村、下北山村、上北山村をご紹介します。

from 川上村  
KAWAKAMI MURA  
職人の父を手伝うために、  
この地に戻ってきました。



▲兵庫さんは父の工場を継ぐため、Uターンした。



▼父は簡単にはしますが、物凄く難しいです。

▲木目を極力生かした、美しく温かく、機能的な作品。

工房 アップル・ジャック 奈良県吉野郡川上村東川1595 ☎0746-53-2443

from 上北山村  
KAMIKITAYAMA MURA  
よそ者にも気さくに接してくれ、  
この村を選びました。



▲島津江さん一家。奥様の直子さんとこの地でご結婚。

島津江さんは滋賀県出身。もともとIT企業に勤めていたが、叔父さんが農業をしていた関係でここ上北山村の森林組合の会計担当に応募する。田舎暮らしへの憧れ、場所、そして決め手は人の良さ。「熱心に誘ってくれました」と笑う。地域の人はなんでも自分でやるそうで、光生さんも真似して1年がかりでデッキを完成させた。



▲のびのび育つ友香ちゃん(2歳)。  
▼デッキのプランク。惣真お兄ちゃんと仲良く。

【問合せは】  
上北山村役場 地域振興課 奈良県吉野郡上北山村河合330 ☎07468-2-0001

from 大淀町  
OYODO CHO  
店舗にはこだわりを凝縮。  
好きを極めた空間を作る。



潇洒なカフェのオーナー太田さん。「移住前はもっと山奥かと思った」そうだが、住めば都、静かな大淀の環境はかえって店舗のイメージをなじませる。何でも自身で確かめる性分で、北海道からフランスまで茶葉の秘密を探りに行くことも。特に女性が楽しめる香り紅茶は、その本場フランス産。アルションで使われているものと同様の品質だ。

▼小物や暖炉など、心配りが心地よさに。



▶外観は憧れの、神戸「風見鶏の館」に近づけた。

北野カフェ 風見鶏  
奈良県吉野郡大淀町北野71-7 ☎0746-33-2016

from 下北山村  
SHIMOKITAYAMA MURA  
海外のアングラーにも  
知られる池原ダムの魅力。



▲明子夫人と。澄んだ川とダム湖はアングラーにとってまさに聖地。

▶何十回キャスト(投げ)しても飽きないと笑う。

バス釣りは、特徴である引きの強さを楽しむスポーツフィッシング。透明度の高い池原ダムの足元でレンタルボートを営む藤原さんは岡山出身。店舗は、釣りの専門学校の恩師から継いだ。世界的にも注目されるこの地と恩師の縁が偶然重なり、移住を決意。「釣りを“仕事”と決めた時、バスのフィールドは、当然選択肢となりました」。ガイドする時は自分が釣れないのが悩み、と笑うが、池原を「バス釣りの聖地」として間口を広げる活動も地道に続けている。

(有)スポーツワールド ☎07468-5-2930 奈良県吉野郡下北山村大字上池原171  
<http://www.sportsworld-ikehara.com/>

どんな場所からでも  
世界に挑戦はできるんです。

大城さんは、スプロケットと呼ばれるカートなどの歯車を作成しているが、耐久性と精度が極めて高いレースで使うプロ仕様専門。本社は大阪で、ここ下北山村との往復生活=ダブルローカルを実践している。オーストラリアの素材をマレーシアで加工し、この下北山で仕上げフランスに納品。ここに工場を建てたのは偶然だが「世界で戦える品質を加工技術で実現することはどこにいっても可能」と文字通り世界規模でのサイクルを完成させている。



▶製品は素人目に見ても、美しく丁寧に輝いている。

▲従業員集合！職人の手から生まれる世界水準のスプロケットが商品だ。

株式会社ザム・ジャパン ☎07468-6-9191 奈良県吉野郡下北山村上桑原409  
<http://www.xam-japan.co.jp>

奥大和移住定住交流センター「engawa」  
Wi-Fi環境を備えた交流スペースがあり、併設している相談窓口では専門の相談員がさまざまな移住情報を提供します。  
☎0744-48-3019 奈良県常盤町605-5 10時～18時 毎金曜、土曜、祝祭日、年末年始



発行・問合せ：  
奥大和移住・定住連携協議会  
(事務局：奈良県移住・交流推進室  
☎0744-48-3016)  
奥大和移住・定住連携協議会は、奈良県と奥大和地域19市町村で構成されています。



本紙は、奥大和地域に暮らしている方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。





味も本格的。カレーにはココナツミルクで程よいコクを出す。

## ボリュームとメニュー数は愛情の裏返し。

板が目に入る。昔ながらのドライブインの雰囲気が残る店内にはいたるところにお品書きが貼られている。「50種類以上はあるかと思えます」店主でシェフの泉岡宜樹さんは言う。カレーにもつ鍋、チキン南蛮に冷麺。さらには海鮮系まで、およそ考えつくメニューはほぼ揃っている。店主自ら毎朝山道を往復し仕入れに行くそうだが、なぜここまでのパリエーションを揃えるのか。それは「ここに住む皆さんに、毎日楽しんでいただきたいから」。出前や宴会にも柔軟に対応するこの店は、吉野町になくはない存在。宜樹さんご自身もここで生活するからこそ、吉野町の住民が望むもの、あったら嬉しいサービスを提供できるのだらう。メニューの数とボリュームは、優しさの量そのものなのだ。なお、セットメニューを頼む時は、お腹に余裕がある状態をオススメする。一般的にはセットのどちらかがハーフサイズなのだが、この店ではフルサイズが合体したものが味わえるのだ。

管理人になるなんて、自分でもまさかです。奈央さんの吉野町との出会いは、地域おこし協力隊での参加。着任当初からの知り合いである達人さんと開業準備も手伝った縁からそのまま南工務店の従業員として、

景色も人も、建物も。雲間気に惚れ込みました。「里」から約3kmほどで、山林から街の風景に色が変わる。蛭子神社を正面に左手路地を進むと、落ち着いた街並みの中に立つ一軒の蔵が目印のゲストハウス三奇楼(さんきろう)に辿りつく。オーナーは地元で工務店を営む、南達人さん。この建物の修繕を手掛けた縁で、売却の話聞き、「趣ある建物に惚れ込んで」軒余曲折あったが購入に踏み切った。こはもともと料亭旅館。建築当時の明治40年代では珍しい4階建てで、吉野を訪れる旅人や役師(いかだし)の疲れを癒していたが、このほど2階建てのゲストハウスとして生まれ変わった。そんな南達人さんの想いを任される管理人は、眼鏡の似合う渡會奈央さんだ。

## 毎朝変わる吉野川の景色に元気をもらう。



「この柱も、それからここも」と建物全部の特徴をおおしらかに説明する。

夏は花火が楽しめるこのデッキは、近大の学生さんとの共同で設置。

ほんの5km圏内に、三者三様の想いを持った「吉野人」が住まう。皆さうがけは様々だが、こ吉野が持つ空気に引き寄せられている。国道169号は素朴で細い道だが、その機能以上に、人と人、そしてその思いを繋ぐ、奥行きを持った道なのだ。

三奇楼に住み込みで管理人業務を行うことに。都会とのギャップに戸惑いはないか?と話を聞くと、「二階から眺める吉野川の景色や、町の人、泊まりに来るお客様との触れ合いが何より楽しい」と笑う。彼女は、三奇楼はもともと、街や川、この地に住む人々まで「吉野をとりまく空間」そのものに喜びを見出している。



## ほかにもたくさん! 国道169号沿線の見どころ紹介

<p><b>大淀町</b></p> <p><b>あかり工房</b></p> <p>「あかり作家」坂本さんの工房兼ギャラリー。中でも注目は、極限まで薄く切った吉野檜のオリジナル素材を用いた、光源が優しく透ける作品。制作体験も可能だ。</p> <p>☎0746-32-5282 〒吉野郡大淀町北野13-12 ☒あかり作り教室 / 吉野和紙 3,800円、吉野檜5,000円</p>	<p><b>吉野町</b></p> <p><b>金峯山寺</b></p> <p>1300年も続く、修験道の総本山。本堂・蔵王堂(国宝)に秘仏本尊蔵王権現三体(重要文化財)が安置されている。毎朝・夕方に往々行われる修行に参加も可能だ。</p> <p>☎0746-32-8371 〒吉野郡吉野町吉野山 ☒拝観料500円(特別拝観期間除く)</p>	<p><b>下北山村</b></p> <p><b>池神社</b></p> <p>ちょうど社の向かい、道を挟んで、「明神池」が静かに広がる。言い伝えでは、尊敬の念を持たないと大雨を招くとも言われ、今でも住民に大事にされている。</p> <p>☎07468-5-2241 〒奈良県吉野郡下北山村池島1</p>	<p><b>上北山村</b></p> <p><b>和佐又山ヒュッテ</b></p> <p>大普賢岳の麓に位置し、原生林に囲まれた広大な草原が広がる。都会では味わえない静寂を感じる目ができる。宿泊すれば、鳥の声で目覚める贅沢な朝を迎えられる。</p> <p>☎07468-3-0027 〒吉野郡上北山村西原1055-1 ☒キャンプ650円、1泊2食1名ヒュッテ7,560円～</p>	<p><b>川上村</b></p> <p><b>下多古村有林</b></p> <p>吉野を見守ってきた木々。江戸時代の植林と言われ、人工林としては全国的に見ても古い部類。村のシンボルとして、手入れをされながら、大事に保存されている。</p> <p>〒奈良県吉野郡川上村大字下多古586-4 ※問合せは、川上村役場 地域振興課(0746-52-0111)</p>
--	---	--	--	--



ゲストハウス・移住体験スペース 三奇楼 SANKIROU

オーナーの南さん(左)は工務店経営。プロの仕事で生まれ変わった内装は、レトロで居心地の良い空間。

喫茶・お食事 里

味も見た目も本格派。シェフの宜樹さんと看板娘のりささん。愛情いっぱい接客も魅力だ。

しいたけ農家 岡本さん

希少性があり市場に出ないため、販売ルートは自ら開拓。同級生のフレンチシェフなどにも卸す。

「親父からは基本だけ教えてもらい、後は自分で試行錯誤し、創意工夫して。」

この山を活かして、この製法を信じる。

「親父からは基本だけ教えてもらい、後は自分で試行錯誤し、創意工夫して。」

現在家業を継ぐ隆志さんは岡本家の三男。日焼けした顔をほころばせ、そう笑う。「継ぐ気は全くなかった」そう、前職はなんと信用金庫の営業。実績も残し、やりがいも感じていたが、毎年開催される地元同窓会で会う幼馴染みや、継ぎ手で困る家業を見るうちに、何かに突き動かされ、3年ほどこの地に戻ってきた。収入だけ見れば、以前の方が安定している。「だからしいたけ農家がしたかった訳でなく、なんとなく、が近いですがねえ。照れ隠しのように言うが、しいたけの話になると、生産者の顔つきになる。

夫して栽培しています。簡単に言うが、原木しいたけはとても手間がかかる。現在主流の「菌床しいたけ」はおがくずを利用し、早いサイクルで収穫が可能だが、隆志さんのしいたけはクヌギやナラの原木に菌をうえ、温度差や水分などで刺激を与えつつ、しいたけが育つ「家」を作ることから始まる。豊かな木々や友人に囲まれた吉野で、自然を活かし手間をかけること。隆志さんが大切にしたいものはお金や効率で計れないものなのだ。

まさに自然が育てる。愛情を感じるしいたけ。この小屋で原木を大事に育て、肉厚のしいたけを収穫する。

人を留め、人を選し、人を魅せる。吉野で生きる人々を輝かせる、国道169号の奥行き。2012年に「日本で最も美しい村」連合に加盟した、吉野町。桜で有名な吉野山付近は、杉や檜の産地としても、国内有数の地だ。今回は、このエリアを通る国道169号線を切り口に、ここで生活を営む3人を取材する。

feature article in R169 Area